

教 育 長	部 長	次 長	課 長	主 査	ス タ ッ プ

会 議 記 録 簿

記 録	職・氏名 社会教育課(施策担当) 主事 飛弾野 冬華				
件 名	令和6年度第2回恵庭市生涯学習推進協議会				
日 時	令和7年2月7日(金) 13:30～15:10			会 場	市民会館(会議室)
出席者	生涯学習推進協議会委員 松田会長、神田副会長、井上、高橋、平井、中山、茶園、根深 安中、八木橋、大塚、徳家、吉田、渡辺、野藤、小川原 市教委 狩野部長 ＜社会教育課＞黒氏課長、津田主査、田中、飛弾野			人 数	委員 16名 市教委 5名 計 21名

概 要

1. 開 会 2. 挨拶 恵庭市教育委員会 部 長 狩野 洋一 3. 【議題】 (1) 【協議事項】 令和6年度「かつてに表彰」推薦団体・個人について ・事務局より趣旨を説明 ・推薦者から補足説明 ～議題：令和5年度「かつてに表彰」推薦団体・個人について承認～ (2) 【意見交換】第5期恵庭市生涯学習基本計画 令和6年度委員評価について ・事務局より説明 ・各委員による意見交換 ・各グループ発表 発表内容(記載内容) 〈チーム1〉井上委員、安中委員、高橋委員、神田委員 ○恵庭文館の一部無人開館（カードレス化） →・活性化は進んでいるが、機械に頼りすぎず、司書はしっかり確保をしていくことで、人と人とのつながりは大切にしないといけない。 ・また、機械だけだと高齢者の方はわからない。利用する際に丁寧に説明してくれる人が必要なのではないか。 ○えにわん産業祭 →・昔と違い、体験事業やゲームなどを取り入れたことにより、子どもやファミリー層の参加が増え、賑わいがあるのではいいのではないかと。 ・地域の人や企業の出店があることで、恵庭市の良さをアピールすることや、子どもたちが恵庭の企業について触れることで、それをきっかけに将来、恵庭に残って働きたいと感じてくれるのではないかと考え、とてもいいと感じた。					
---	--	--	--	--	--

○文化振興事業（えにわ市民文化祭）

→・コロナ禍で文化活動の参加人数は少なくなっているが、この文化祭によって活動する人をつなぎとめたり、日頃の活動を見てもらえる唯一の場となっていることや、活動を知る新たなきっかけになるのではないか。

- ・文化活動の参加者がコロナ禍により減ったほか、高齢化が進んでいることが課題ではないか。
- ・また、今後にしっかりと伝統や活動をつないでいくことでできるかという課題も挙がった。

○まとめ

- ・恵庭市は人だけではなく、ジャンル、専門性を超えた繋がりによって地域の活性化につながっているのではないか。

〈チーム1〉徳家委員、大塚委員、茶園委員、八木橋委員

○図書館開館24時事業

- ・生涯学習の活性化するきっかけについては、すべての事業がきっかけにはなっているという話が挙がった。
- ・また、100人以上の市民が参加し、参加者も多く、賑わいもあり良いのではないか。

○公民館IT講習事業

- ・IT講習会の参加者に比べ講師の数が少なく、講師の負担が大きいのではないか。事業によっては参加者人数が多ければいいということではなく、なにをもって生涯学習の活性化とするのかという話題があがった。

○ふるさと散歩見学会

- ・参加者も多く、参加者の満足度が高い一方で、ボランティアが少なく、後継者もいなく、この先どうすればいいのかという課題があった。
- ・移住してきたばかりの人は恵庭のことを知ることができてよかったという声が挙がっているが、ボランティアの負担が大きい。今後、ボランティアを育成できるような支援も必要だと感じた。

○～恵庭市の学校・地域をつなぐ～コミスクかふえ

- ・コミスクかふえに参加して楽しかった、良かったという意見はあるが、参加したその先をどうすればいいのか。内容を持ち帰ったはいいが、実際に形にしていくにはどうしたらいいのかが不安という声もあった。
- ・学校と地域が繋がるためのきっかけづくりを作っていくことが課題。

○まとめ

- ・活性化のゴールはどこに置くかは、それぞれの事業によって違うため、事業の目標を具体的にして、その目標に向かいどうすべきか深く突き詰めていくことで活性化していくのでは
- ・横のつながり、リアルなつながりということで、SNSやウェブ上で誰かと繋がることはできるが、町を盛り上げ、町を良くしていくためには、皆さんと意見交換することで活性化できる、または町を動かすことができるのではないかと感じる。横のつながりによって活動していくことが未来へ繋がっていくのではと感じる。

〈チーム1〉松田委員、野藤委員、根深委員、小川原委員

○えにわ大好き！食の体験ランド

- ・大学生と小学生との農家の繋がりが見えたほか、子どもに向けた食育の良い機会となった。
- ・また、学生や農家の方々の学びの場にもつながっている。

○朝読・家読事業

- ・朝の10分間の積み重ねが小学校から中学校にかけて行われ、生涯学習のいい機会だと思う。
- ・ただ、本で学んだことを他にどうつなげいくかというアウトプットが大切ではないか、読書の大切さや、目的が子どもにきちんと伝わっているのかという意見があり、目的をもう少し伝えられたらと思う。

○公民館分館活動

- ・ 日々生涯活動を行っている方の良い発表の場とはなっているが、活性化という点ではどうだろうかと感じる。 今後の広がりとしては近くに恵庭北高校もあるため、市内の学校とのコラボなどを行い、人と人とのつながりを広げていければいいのではないか。

○歩くことを通したまちづくり事業

- ・ 目的が明確化されておらず、何のためにこの事業をやっているのかを考える必要がある。健康を意識したり、学べるしかけをつくるところで考えると、この事業でいいのかと感じた。
- ・ イベントではなく、アプリなどを利用し、継続して健康を意識できるような仕組みが出来ればいいのではないか。

○まとめ

- ・ 全体を通して、つながり、目的がキーワードとしてあがっていると感じた。

〈チーム1〉徳家委員、大塚委員、茶園委員、八木橋委員

○工作体験教室

- ・ 親子でいすをつくるという体験となっており、参加人数は少ないが、支援者が少ない中で安全に事業を行うことを考えるといい人数ではないかと感じた。
- ・ 材料高騰もあるので、かかるお金が増えるのではという懸念があるが、作る作品を工夫して続けていってほしいと感じる。

○長寿大学

- ・ そもそも、長寿大という名前はどうか、対象者も若いので名前から考え直す必要があるのではないかという意見が挙がった。
- ・ また、担当者の日程が合わずに足を運べず、事業の様子をHPで見ようとしたが、掲載されていなかった。授業内容や様子がHPなどを通してもう少し見えるようになれば、新しい参加者の広がりがあるのではないか。

○えにわ芸術文化宅配事業

- ・ 作品が溜まってきていると聞いているが、作品の整理が必要なのではないか。
- ・ また、作品の飾られている場所が、会社の事務所やスナックなどに飾ってあるため、気軽にふらつと市民が行ける場所ではないと思う。担当者の努力はわかるが、この事業の目的はどこにあるのかを明確にして軌道修正が必要では。
- ・ 作品を交換する方の高齢化も進んでいると聞いており、大きい作品の交換が難しいということであればそもそもの事業の見直しがひつようでは

○公民館文化事業

- ・ 赤ちゃんから中学生まで親子で聴くことができ、楽しんで参加していた様子があり、ぜひ続けてほしい事業だと思う。
- ・ チラシを支援センターなどほかの担当課と連携して配布するなどして情報共有してほしい。
- ・ SNSのイベント情報でくるが、保護者の目に留まらないのももう少し工夫が必要では。

○まとめ

- ・ 全体をとおして、情報の発信をしてほしい。高齢の方が対象もため難しいという意見もあるが、十分IT対応できると思うし、難しさを感じるのであれば、長寿大の最初の授業でITについて学ぶことも大切ではないか。

4. その他

- ・ 第3回恵庭市生涯学習推進協議会 3月14日(金) 13:30～ 市民会館中ホール予定
- ・ 社会教育委員の自主研修会の日程調整について

5. 閉会

以上

会議の様子

